

[成果情報名]カンキツ生産地域におけるイノシシの竹林利用と竹林枯殺がイノシシの掘り起こしに及ぼす影響

[要約]カンキツ生産地域において竹林はイノシシのエサ場として4～6月に多く利用されており、除草剤による枯殺処理でイノシシのエサを減らすことができる。

[キーワード]イノシシ、竹林、タケノコ、カンキツ

[研究所名]和歌山農総セ・果樹試・環境部

[代表連絡先]電話 0737-52-2340

[区分]近畿中国四国農業・生産環境（鳥獣害）

[分類]技術・参考

[背景・ねらい]

カンキツ生産地域の獣害発生環境を改善するため、獣類の餌付けエサとなっている農作物などの実態を把握し、対策の方法を検討する。和歌山県ではカンキツ類などの収穫に用いるカゴを作成するため植栽された竹林が園地周辺に点在し、現在それらの多くは放置されている。ここではイノシシの竹林の利用状況を把握し、竹林の除去がエサの削減に繋がるか検討する。

[成果の内容・特徴]

1. カンキツ生産地域の竹林内では4～6月にイノシシの出没が多くみられる（図1）。
2. 出没したイノシシは地面を掘り起こし、タケノコを食べる（図2）。掘り起こした穴の周辺に食べ残したタケノコやその皮が散乱する。また新鮮な糞もみられる。
3. 除草剤による竹林の枯殺処理を実施しタケノコの発生がなくなった場合、イノシシによる掘り起こし箇所数は少なくなる（図3）。
4. 竹林を枯殺することで、カンキツ類果実がない時期のうち4～6月のイノシシのエサを減らすことができる（図4）。

[成果の活用面・留意点]

1. 和歌山県果樹試験場構内放置ハチク林での調査データである。
2. 枯殺処理は農薬登録を受けた除草剤を適正に使用する。
3. 枯殺処理は竹の種類によって効果が異なる

[具体的データ]

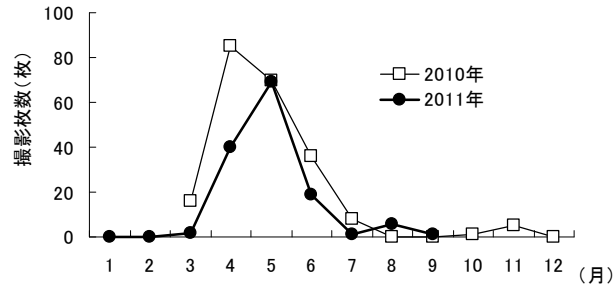


図1 固定カメラによるイノシシの月別撮影状況

- ※ 2010年3月～2011年9月にかけて、和歌山県果樹試験場構内の放置竹林内に赤外線センサーカメラ (Game Spy I45、Moultrie Feeder 社製) を設置、動物を感知している間は、動画 (明間30秒間、暗間5秒) と静止画をインターバル60秒で撮影し続ける設定とした
- ※ 解析は静止画で実施し、イノシシが写っている枚数をカウントした



図2 土中のタケノコを食害するイノシシ

- ※ 2010年5月2日19時57分に赤外線センサーカメラ (Game Spy I45、Moultrie Feeder 社製) で撮影
- ※ 矢印はタケノコの位置を示す

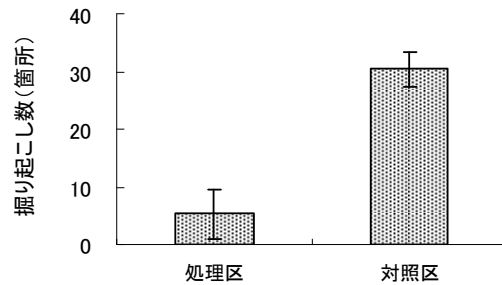


図3 枯殺処理区のイノシシ掘り起こし数

- ※ 処理区、対照区 (無処理) とともに6区 (5×5m)
- ※ 2009年7月2日、処理区および周辺の全竹稈に除草剤 (グリホサートカリウム塩液剤) を注入処理
- ※ 2010年5月27～28日に掘り起こし数を調査
- ※ 図中の棒線は標準偏差を示す
- ※ 処理区と対照区に差が認められる (t-test, $P < 0.01$)

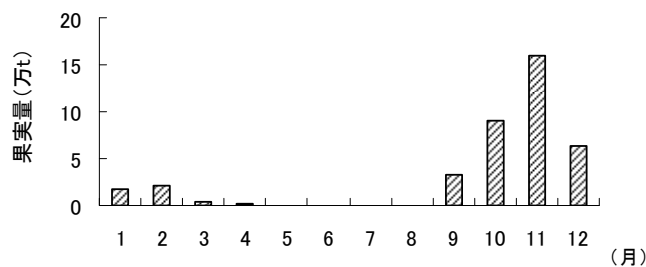


図4 調査地周辺におけるイノシシ可食カンキツ類果実量の推移

- ※ JA 総合選果場取扱量から推定 (収穫1ヶ月前よりイノシシが可食)
- ※ 園地条件やイノシシ対策の有無などは考慮しない

(法眼利幸)

[その他]

研究課題名：農作物鳥獣害防止技術実証

予算区分：県単

研究期間：2009～2011年度

研究担当者：法眼利幸、山本浩之、井沼 崇、貴志 学、井口 豊、森口幸宣